
いつか、心から「ありがとう」を

林檎の葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつか、心から「ありがとう」を

【Nコード】

N6267E

【作者名】

林檎の葉

【あらすじ】

ある日の下校途中、コナンは蘭の姿を見かけ、声をかける。一緒に歩いていると、蘭が突然「アジサイを見に行こう」と言い出した。

(前書き)

この小説は梅雨の真っただ中という設定で書いています。微妙に時期がずれています。それでもいい人はどうぞ。

下校中、大好きな人の後ろ姿を見つけて、オレは思わず声をかけた。

「…蘭ねちゃん！」

「コナンくん。」

オレの大好きな人——蘭は、笑顔で振り向いた。手には、蘭のお気に入り真っ赤なかさ。

「コナンくん、今帰り？」

「うん。蘭姉ちゃん、今日は早かったんだね。」

「うん。もうすぐ期末テストがあるから、部活休みなんだ。」

「そうなんだ。」

オレは、蘭の隣を歩き始めた。好きな人の隣を歩ける、その特等席が心地よくて、オレはずっと笑顔だった。オレが話しかければ、微笑み返してくれる。その事実さえ今は嬉しくて嬉しくてしょうがなかった。

蘭は泣き虫だけど、それと同じくらい明るくて、笑顔がきれいで。その笑顔を守れるかどうかオレにはわからないけど… いや、絶対に守ってみせる！

ただ蘭の隣に立っていられること。ただ蘭の隣を歩けること。それ

がオレの生きる意味になる。

ただ 泣いて笑って 過ごす日々に
隣に立って居れることで
僕の生きる意味になって
君に捧ぐこの愛の唄

「そうだ！ 今から新一の家に行ってみない？ 前に植えたアジサイが
今、きれいだよ！」

蘭が嬉しそうに言った。

「でも、テスト勉強しなくちゃいけないんじゃないの？」

「うん、それはそうなんだけどね。でも今、ちょうど見頃なのよ。
ね、一緒に行こ！」

そんな言葉を満面の笑みとともに言われたら、うなずくしかない。

それをわかってて言ってるじゃねーだろうな、コイツ。

「うん！」

オレは力いっぱいうなずいた。

家に着くと、早速オレたちは庭のアジサイに向かった。そこには、ピンクと紫の見事なアジサイが咲いていた。

「きれいだね…。」

「うん…。」

そんな事を言うオレはというと、蘭のきれいな横顔に見とれていて。アジサイより蘭の方がずっときれいだよ、なんて、クサイセリフを言うつもりはねーけど。

でも、100回「ありがとう」を言っても足りないぐらい、お前には感謝してるんだぜ？何も言わずにそばにいてくれること、ただ隣で笑っていてくれること。蘭のしぐさ、表情、声。蘭の何もかもが愛しくて、ただ愛しくて。

「…ありがとな。」

オレはポツリとつぶやいた。

「…え？何が？」

蘭は不思議そうな顔をしている。

「連れてきてくれて、ありがとな。」

オレは慌ててその意味をごまかした。

「なんだ、そんなこと？いいのに、お礼なんて。でも、気に入ってくれてよかった！また一緒に来ようね！」

蘭はそう言って立ち上がると、スカートのプリーツを直した。

「さ、帰ろう。テスト勉強しなくっちゃ。」

「ああ。」

ただ 泣いて 笑って 過ぎす日々に
隣に立って居れることで
君と生きる意味になって
君に捧ぐ愛の唄

いつか絶対に言うから。愛しいお前に、本当の意味で、心の底から「ありがとう」を。

（後書き）

初めまして、あるいはこんにちは。林檎の葉です。

初めての短編小説、書き上げました。やっぱり結構長いですね…。あと、コナンは男なので、女の私にはコナンの心情を言葉で表現するのに苦労しました…。一応この小説は、前作の「もう限界。」と次回作の間の出来事として書いています。が、読んでいない方でも大丈夫だったと思います。コナンが蘭に対して、どうして「ありがとう。」ではなく、「ありがとな。」と言っているのかは、「もう限界。」を読めばわかります。

また、気づいた方もいると思いますが、この小説はG R e e e Nの「愛唄」という曲を参考にして書きました。上手く歌詞を組み込めているでしょうか…。なにしろ駄文なので心配です。

次回作は、かなりの長編になると思います。何話になるかはわかりませんが、前作の「もう限界。」よりは確実に長いです。また、黒の組織との接触があります。これ以上はネタバレになるので言えませんが。

こんな長ったらしい後書きを読んでくれてありがとうございます。よかったら評価お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6267e/>

いつか、心から「ありがとう」を

2010年11月3日14時26分発行